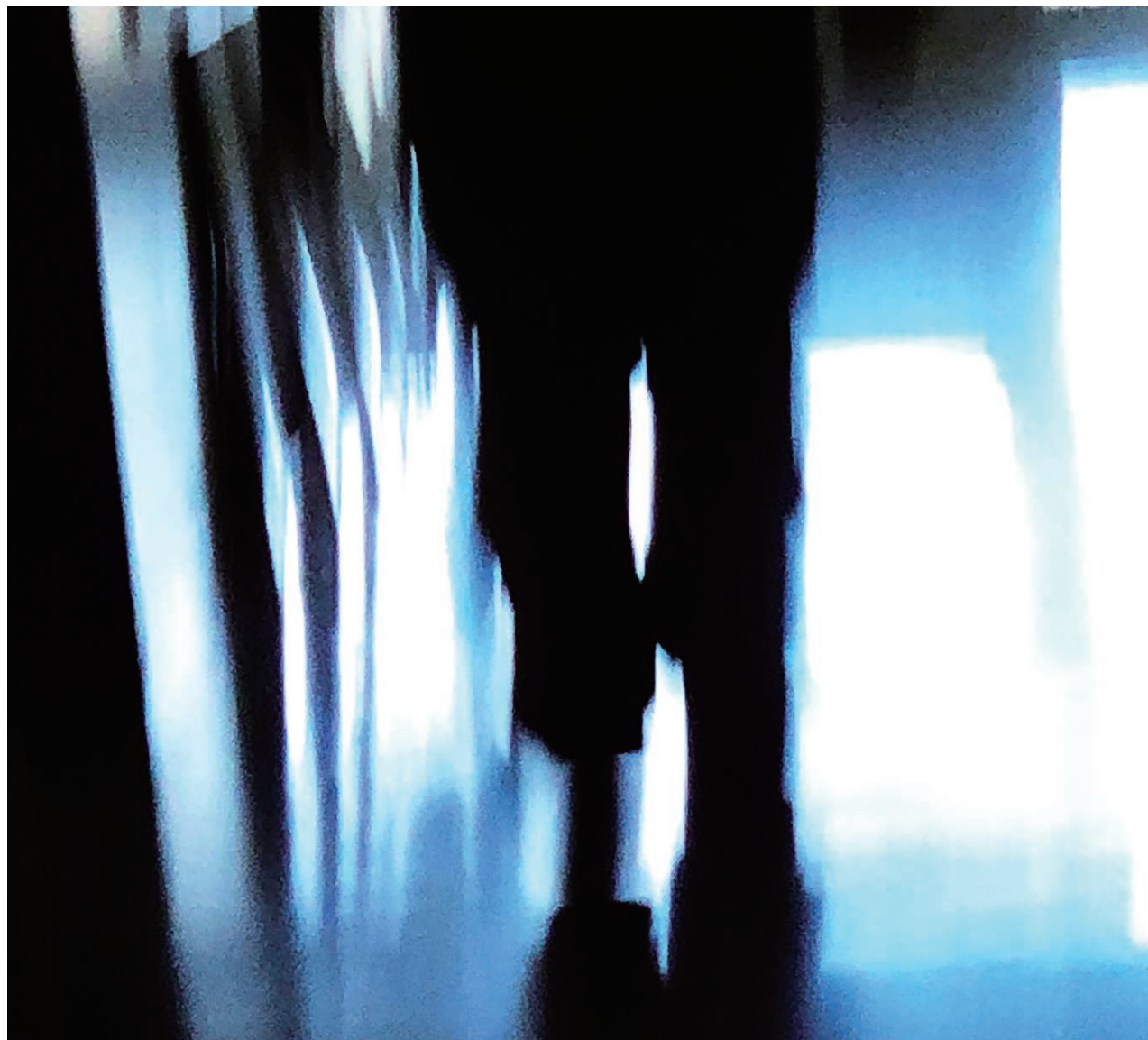


IDDNewsletter.....12

December
2024



特集

Society5.0 時代の新たな挑戦 ～情報デザイン科の試験改革とデジタル化の未来～

情報デザイン科では、定期試験が学生の学力測定にとどまらず、教育の新たな構造を模索する場となっています。オンライン化や持ち込み可能試験の導入など、試験形式が大きく変革され、アクティブラーニングを促進しています。試験問題作成や採点には AI や OCR を活用し、教員の負担軽減と働き方改革にも寄与しています。この取り組みは、教育現場全体のインテリジェンス化を推進し、Society 5.0 時代に求められる柔軟で創造的な学びを提供しているものと考えています。今回は、これまでの取組の経過について御紹介いたします。

Society5.0 時代の新たな挑戦

～情報デザイン科の試験改革とデジタル化の未来～

情報デザイン科では、定期試験が学生の学力測定にとどまらず、教育の新たな構造を模索する場となっています。オンライン化や持ち込み可能試験の導入など、試験形式が大きく変革され、アクティブラーニングを促進しています。試験問題作成や採点には AI や OCR を活用し、教員の負担軽減と働き方改革にも寄与しています。この取り組みは、教育現場全体のインテリジェンス化を推進し、Society 5.0 時代に求められる柔軟で創造的な学びを提供しているものと考えています。今回は、これまでの取組の経過について御紹介いたします。

現在、専攻科情報デザイン科では、定期試験の時期に入っています。学生たちは、日々努力を重ねながらこの時期を乗り切ろうとしています。これらの試験は、学生側にとっては学力の測定の場となりますが、運営側としては、ここにとどまらず、教育の新しい構造を模索する場としても機能しているように思います。

例えば、本校は、検定試験である「美術検定」や「Illustrator、Photoshop の検定」「著作権検定」など、幅広い分野に対応した検定試験を実施していますが、最近では、どの検定試験においてもオンラインで完結する試験が増え、学生が試験会場に足を運ぶ必要がなくなり、効率化が進んでいます。このような変化は、教育の現場に新たな価値を提供しています。

情報デザイン科の定期試験においても、これらの影響を受

け、試験のフレーム自体が大きく見直されました。従来の「過去の経験に基づく垂直的な再現」から、「構成要素を横断的に OJT 的に実践に役立つ形で編入する」という構造的な評価方法へ移行してきています。このようなオンライン試験の実施は、従来の教育構造を単にオンラインに置きかえるのではなく、新しいフレームを構築するための機会を提供するものと考えられます。

一例として、この情報デザイン科の試験では、参考資料の持ち込みが許可されています。この取組は、資料を読み解き、自らの知識として活用するプロセスが学習効果を高めると判断した結果、改めて導入されたものです。学生たちは資料の持ち込みは許可されて入るものの、それなりにタイトな制限時間内に回答する必要がありますから、ある程度の内容を事





前に学び、試験中にその知識を活用して回答する必要があります。このことがアクティブラーニングに直結しているように思います。

情報デザイン科における自立活動的側面としての「学習言語の読み」自体を確保していく上で、この形式は非常に合理的なものとして機能するものと考えていますし、ある意味コロナ禍における「ICT化、インテリジェンス化」があったからこそ促進されたもの、とも言えるかもしれません。

また、試験の形式だけでなく、問題作成や採点のプロセスにも変革がもたらされています。既存のテキストをAIやOCR技術で効率的に問題化し、eラーニングシステムを活用した自動採点が導入されました。これにより、働き方改革の一環として、教員の負担軽減にも大きく繋がっています。このような専攻科情報デザイン科におけるインテリジェンス化の取組は、今後、学校全体での在り方にも大きな影響を与えるでしょう。まさに、Society5.0時代の到来を感じさせます。

規模が大きかろうが、小さかろうが、フレームの価値は等価であると考えます。確実な実践をとおして、フレームをより強固なものとする事で、本校全体のインテリジェンス化につなげたいと考えます。最終的には、情報デザイ

ン科のような小さな一ブランチの一実践にとどまらず、フレームを適切に機能させることで、さらなる発展を目指していきたいと考えます。

教育のデジタル化が進む中、このような取組を通じて、より柔軟で創造的な学びの場を提供していくことが求められているように思います。情報デザイン科では、これらの試みを積み重ねることで指導の手だてを高次元化、学生たちにとって最適な学習環境を構築していくことを目指しています。

IDDN

Contents

特集

2-3 Society5.0 時代の新たな挑戦 ～情報デザイン科の試験改革とデジタル化の未来～

情報デザイン科では、定期試験が学生の学力測定にとどまらず、教育の新たな構造を模索する場となっています。オンライン化や持ち込み可能試験の導入など、試験形式が大きく変革され、アクティブラーニングを促進しています。試験問題作成や採点には AI や OCR を活用し、教員の負担軽減と働き方改革にも寄与しています。この取り組みは、教育現場全体のインテリジェンス化を推進し、Society 5.0 時代に求められる柔軟で創造的な学びを提供しているものと考えています。今回は、これまでの取組の経過について御紹介いたします。

Welcome to Information Design Department !!

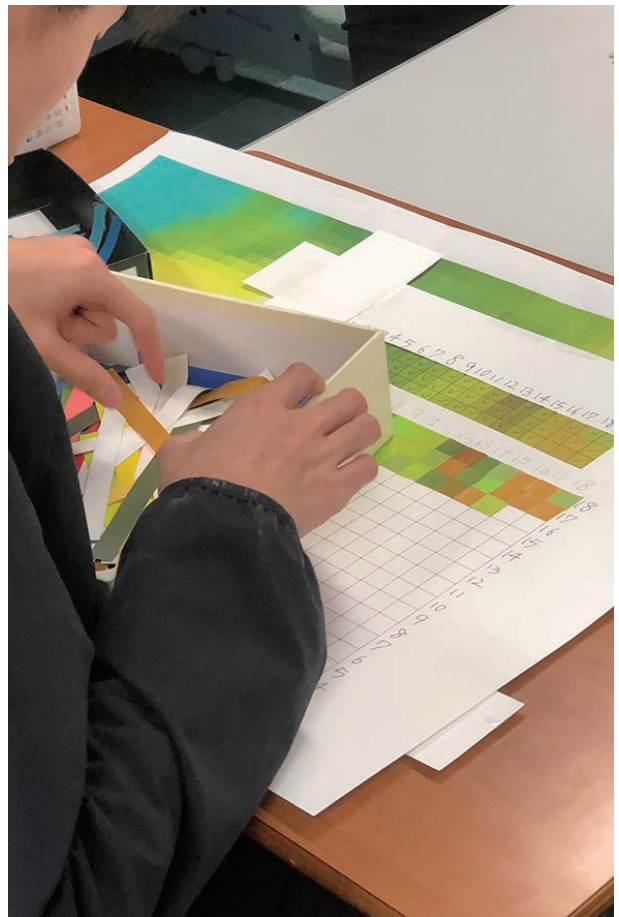
北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」をお読みいただきありがとうございます。

本校情報デザイン科では広く全国から学生を受け入れています。聴覚障がいがあり、高等学校や中等教育学校等の修了生（卒業見込みを含む）であれば、どなたでも出願資格があります。年齢も不問です。

授業料がかからないことに加え、低コストで、専門的な知識や技術を学べます。支援制度については、就学奨励費等の帰省や通学、食事等に関わるものがあります。また、寄宿舎があり、道内外問わず入舎が可能ですし、土日祝日も開舎していますので遠方からの入舎も安心です。本校情報デザイン科に興味がある方は、ぜひ本校まで御連絡いただければと存じます。詳しくは、本校 Web サイトの情報デザイン科のページを御覧ください。

○専攻科情報デザイン科への入学説明と個別懇談について

次年度の入学説明や個別懇談等を御希望される方がいらっしゃいましたら、都度対応させていただきます。専攻科入学選考事務局に御連絡ください。（担当：堀、桑原）



情報デザイン科学科だより
Information Design Department

IDDNewsletter

December 2024

IDDNewsletter December 2024

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム

発行／北海道高等聾学校

〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1

www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。